



白馬岳山行報告（9月定例・プロジェクトX風報告）

【日時】9/7～8（日）晴れ

【山域】北アルプス北部白馬岳

【参加者】Hotta CL, Ozawa（会計）, Ogawa, Yamaguchi, Takayama（Record）

MISION: 定例山行を通じてちば山の新人メンバー3人含め、北アルプス北部白馬の大雪渓を踏破せよ(Ozawaの長年の念願でもあった):白馬岳より日本アルプスの美を(再)発見せよ

Project Member:

Hotta: 綿密かつ戦略的で、統率力の優れたリーダー

Ozawa: 繊細で周到な思料の効くファイナンシャル スペシャリスト

Ogawa: ロードスターからパジェロまで乗りこなす、屈強で優しい心持ちの男

Yamaguchi: 見た目では分からない山に入ったら別人に変身する入会0.25ヶ月の新人

Takayama: 山に住み着く願望というが3日で人里に帰ってしまう三日坊主的な持ち主

前夜発の6日夜8時千葉駅集合で長野に向けて出発で、中央道経由で白馬第2駐車場に着いて、仮眠。3時間あまり仮眠の後、リーダーの号令で5時半に出発。

・・・が、初日から数多くの難題並びに幸運も立て続けにチームを待ち構えた

DAY 01 大雪渓を踏破せよ

05:30 出発して登山口の猿倉荘へ向かうべきバス停に近づ

くが、大勢な人集りが既にあった。バスに乗り込めず
に遅れると工程全体に影響してしまうと、先頭を歩いて
いたリーダーHottaに嫌な予感。すると、一台のタク
シーが目の前に停まった。機転を利かせたHottaがす
ぐさま運転手に頼んだ。5人を一度に運べるタイプの
タクシーだと聞いて、みんな歓声が上がった。出だし
の時間節約ができて、ラッキーだった!



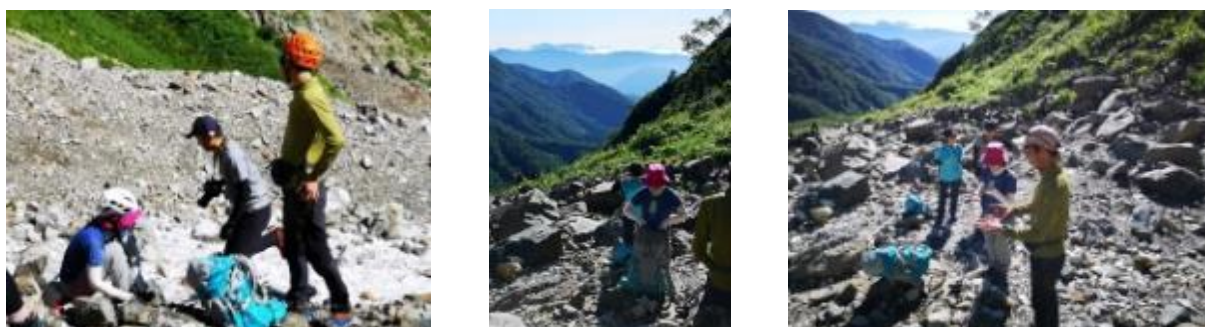
06:20 登山口の猿倉荘でトイレ、給水等を済ませて、いよいよ登山開始。リーダーの指示により、Hotta-Ozawa-Yamaguchi-Takayama-Ogawaの布陣を取った。



07:30 早朝のさっぱりした空気を深呼吸し、北アルプスの山容を眺めながら、1時間ちょっとで大雪溪に着いた。全員興奮気味で大雪溪をバックにカメラを構えたり、給水したり、しばしの休憩を取った。



09:15 大雪溪を目の前にして、すぐさま踏み入れるかと思いきや、更に1時間45分間ほど雪溪右岸の登山道をひたすら登った。が、決してつまらない山歩きではなく、色とりどりの高山植物の花々がチーム全員を楽しませてくれた。いよいよというか、待ちかねた雪溪歩きが始まるぞって言わんばかりの高揚感が溢れていたのは自分だけだったのか？しかし、ちょっと待った！リーダーHottaによる、雪溪進入準備のチェックは入念だった。ヘルメットにアイゼンの付け方、万全なのか？雪溪歩きは普通の登山道と違い、安全リスクがゴロゴロあった。



09:30 安全装備を整えた上でやっと大雪渓に突入した。大雪渓を登っていく間、雪面にゴロゴロしていた落石。いつでも落石が落ちてくる危険があること、そして底が見えないほど深いクレバスを超えなければならない。雪渓を楽しむためには、十分な安全意識と装備が不可欠であることを改めて認識させられた。



10:15 大雪渓から出たのは10時15分だった。が、チームを待ち構える新たな試練の連続はここからだった。

アイゼンの始末と水分補給のため、大雪渓の上流端で10分間休憩をしてすぐ、頂上へ目指した。登山道に乗ったつもりだったが、大雪渓上流端のコースは巨岩に遮られて見通しが悪い。先頭を歩いていた別のパーティがコースを外れて真上の涸れ沢にミスリード。リーダーがコースアウトであることを確認して、元の登山道に戻るよう指示を下した。又、難所で立ち往生していた小柄な山ガールが居たが、会歴0.25ヶ月の新人メンバーのYamaguchiが手を差し伸べて助けていた。それを見てエライって思った。やさしいなあ。

森林限界超えの登山道に木陰が無く、容赦ない日差しのもと、5時間以上歩いたメンバー達の疲労感が込み上がる。

こんな時リーダーのアメとム千の使い分けの出番だ。「白馬山荘のスカイフラザの生ビールがうまいだろうな」とか、「遅れるとチェックインできないぞ」とか、「次の看板のあるところで休憩しよ」とかで、みんなの足を何とか運ばせて、11時45分にやっと村営宿舎の屋根が見えた。ハアハア、バテた、バテた、バテた。



13:00 村営宿舎に着いた（が、われわれの小屋ではない!!!）

13:15 稜線に出た!!! 眺望が素晴らしい! 目の前に旭岳だ、後ろに日本海が・・・近い!

左の稜線の先に杓子岳、更に白馬槍ヶ岳の雄姿、遠方に剣の姿も：右に曲がれば稜線の先にわれわれの白馬山荘、その裏に白馬岳が優雅に座るのではないか？思わずパノラマの1枚。



13:20 稜線上の眺望に酔い痴れる



13:45 白馬山荘到着。

一人ひとり疲れ切ったところ、OzawaとHottaリーダーがチェックイン手続きを済ませる。普通料金で予約したが、なんと個室をゲット！しかも、良く気の利いたOzawaがあのかぼ山会員の神器、そっ、労山カードに物を言わせて割引料金となった。

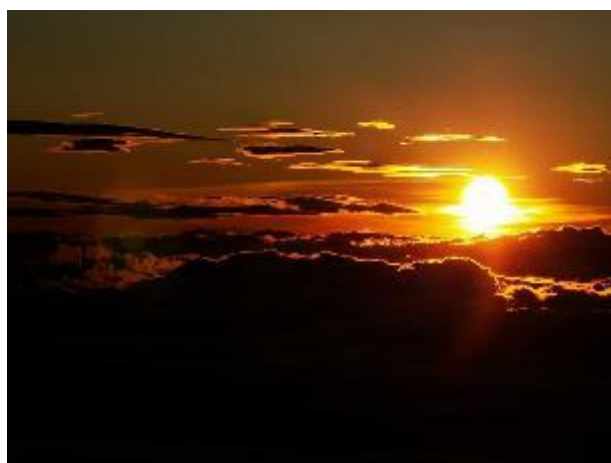
14:-- 剣にカンパイ（リーダーのねぎらいに感謝！）と白馬岳ピストン登頂と旭岳の夕焼け、全部旨かった！！



DAY 02 日本アルプスの美を（再）発見せよ

04:50 朝食

05:15 白馬小屋裏側より雲海からのご来光のスペクタクルショー



05:30 小屋を出発、白馬岳を再登頂&白馬岳にさようなら～



06:30 三国境経由、稜線歩きで小蓮華山に向かうも、八ヶ岳越しの富士山眺望に心を奪われる



07:20 気持ちの良い稜線を伝って小蓮華山に到着、休憩。白馬に未練を残さないための1枚。



09:00 白馬大池到着、休憩。湖水がつめたくて触っていて気持ちよかった。湖畔に良く整地されたテント場が環境に恵まれて、トイレも近くてきれい、いつか泊ってみたいなと思うようになった。



10:50 岩場の急降下を経て、梅池自然園に入る



11:45 梅池ビジターセンター

ーに到着、ロープウェイにて下界へ、ここでも登山カードのお世話になり割引料金で乗車券をゲットした。お疲れさまでした。



13:00 入山時と同様、5人乗りタクシーを利用して八方第2駐車場に戻り、八方の湯に浸かり、八方美人のラーメンをすすって、中央道にて帰葉。

今回の白馬山行は天気にも恵まれ、当初天気が下り坂で二日目の頂上での日の出鑑賞が望めない予報だったが、予報が外れて良かった！最高に楽しませてくれた。そして、何よりも企画から遂行までこのプロジェクトに尽くした Hotta リーダー、優れたチームワークを発揮した Ozawa, Ogawa, Yamaguchi 各メンバーに感謝を申し上げたい。サンキュー！

記録：Takayama